

4.4.3 財政収支内訳表（ケース2：料金据置、有収水量一定）

(1) 損益勘定内訳表

表 4-4-1：損益勘定の部（ケース2）

単位：千円（税抜）

西暦年度	2015年	2018年	2023年	2028年	2033年	2038年	2043年	2048年	2053年	2058年
業務量	年間有収水量(千m ³)	904	938	941	938	938	938	941	938	938
収入の部	給水収益(料金収入)	58,772	60,970	61,165	60,970	60,970	60,970	61,165	60,970	60,970
	その他営業収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	営業外収益	2,570	2,423	2,209	2,028	1,878	1,750	1,643	1,553	1,477
	特別利益	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計 ①	61,342	63,393	63,374	62,998	62,848	62,720	62,808	62,523	62,447
支出の部	人件費	8,393	8,727	8,727	8,727	8,727	8,727	8,727	8,727	8,727
	維持管理費	26,648	22,572	22,572	22,572	22,572	22,572	22,572	22,572	22,572
	支払利息	5	0	0	0	0	0	0	0	0
	減価償却費	8,904	14,901	20,172	20,623	22,647	24,814	21,605	24,630	25,229
	その他	5,555	0	0	0	0	0	0	0	0
計 ②	49,505	46,200	51,471	51,922	53,946	56,113	52,904	55,929	56,528	
損益	①-②	11,837	17,193	11,903	11,076	8,902	6,607	9,904	6,594	7,810
		0	0	0	0	0	0	0	0	0
原価・料金	供給単価(円/m ³)	65.0	65.0	65.0	65.0	65.0	65.0	65.0	65.0	65.0
	給水原価(円/m ³)	53.1	47.8	53.5	54.3	56.7	59.1	55.6	59.1	57.8

(2) 資本的収支内訳表

表 4-4-2 : 資本的収支の部 (ケース 2)

単位: 百万円 (税込)

西暦年度		2015年 ~2018年	2019年 ~2023年	2024年 ~2028年	2029年 ~2033年	2034年 ~2038年	2039年 ~2043年	2044年 ~2048年	2049年 ~2053年	2054年 ~2058年
収入の部	企業債	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	他会計負担金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	他会計借入金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	工事負担金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	固定資産売却代金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	国庫(県)補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計 ①	0	0	0	0	0	0	0	0	0
支出の部	建設改良費	260	228	69	111	72	14	139	31	144
	企業債償還金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	予備費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計 ②	260	228	69	111	72	14	139	31	144
不足額	①-②	▲ 260	▲ 228	▲ 69	▲ 111	▲ 72	▲ 14	▲ 139	▲ 31	▲ 144

表 4-4-3 : 資金残高・企業債残高 (総括表)

単位: 百万円

西暦年度		2018年	2023年	2028年	2033年	2038年	2043年	2048年	2053年	2058年
資金収支	企業債残高	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	資金残高	275	223	314	367	456	594	623	749	768

4.4.4 財政収支内訳表（ケース3：料金据置、有収水量低減）

(1) 損益勘定内訳表

表 4-4-4：損益勘定の部（ケース3）

単位：千円（税抜）

西暦年度		2015年	2018年	2023年	2028年	2033年	2038年	2043年	2048年	2053年	2058年
業務量	年間有収水量（千 m ³ ）	904	938	753	751	751	751	753	751	751	751
収入の部	給水収益（料金収入）	58,772	60,970	48,945	48,815	48,815	48,815	48,945	48,815	48,815	48,815
	その他営業収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	営業外収益	2,570	2,423	2,209	2,028	1,878	1,750	1,643	1,553	1,477	1,413
	特別利益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計 ①	61,342	63,393	51,154	50,843	50,693	50,565	50,588	50,368	50,292	50,228
支出の部	人件費	8,393	8,727	8,727	8,727	8,727	8,727	8,727	8,727	8,727	8,727
	維持管理費	26,648	22,572	22,572	22,572	22,572	22,572	22,572	22,572	22,572	22,572
	支払利息	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減価償却費	8,904	14,901	20,172	20,623	22,647	24,814	21,605	24,630	25,229	23,274
	その他	5,555	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計 ②	49,505	46,200	51,471	51,922	53,946	56,113	52,904	55,929	56,528	54,573
損益	①-②	11,837	17,193	▲ 317	▲ 1,079	▲ 3,253	▲ 5,548	▲ 2,316	▲ 5,561	▲ 6,236	▲ 4,345
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
原価・料金	供給単価（円/m ³ ）	65.0	65.0	65.0	65.0	65.0	65.0	65.0	65.0	65.0	65.0
	給水原価（円/m ³ ）	53.1	47.8	66.8	67.9	70.8	73.8	69.5	73.8	74.7	72.2

(2) 資本的収支内訳表

表 4-4-5 : 資本的収支の部 (ケース 3)

単位: 百万円 (税込)

西暦年度	2015年 ~2018年	2019年 ~2023年	2024年 ~2028年	2029年 ~2033年	2034年 ~2038年	2039年 ~2043年	2044年 ~2048年	2049年 ~2053年	2054年 ~2058年
収入の部	企業債	0	0	0	0	0	0	0	0
	他会計負担金	0	0	0	0	0	0	0	0
	他会計借入金	0	0	0	0	0	0	0	0
	工事負担金	0	0	0	0	0	0	0	0
	固定資産売却代金	0	0	0	0	0	0	0	0
	国庫(県)補助金	0	0	0	0	0	0	0	0
	計 ①	0	0	0	0	0	0	0	0
支出の部	建設改良費	260	228	69	111	72	14	139	31
	企業債償還金	0	0	0	0	0	0	0	0
	予備費	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
	計 ②	260	228	69	111	72	14	139	31
不足額	①-②	▲ 260	▲ 228	▲ 69	▲ 111	▲ 72	▲ 14	▲ 139	▲ 31
								▲ 144	▲ 144

表 4-4-6 : 資金残高・企業債残高 (総括表)

単位: 百万円

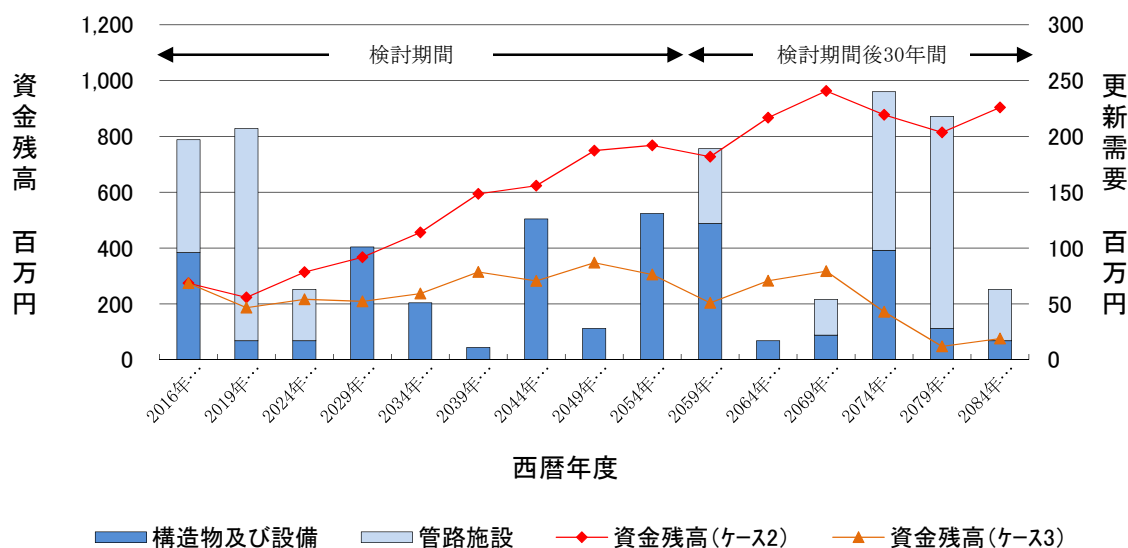
西暦年度	2018年	2023年	2028年	2033年	2038年	2043年	2048年	2053年	2058年
資金収支	企業債残高	0	0	0	0	0	0	0	0
	資金残高	275	187	216	209	237	314	282	348
									305

4.4.5 資金残高の適正確認

検討期間最終年度（2058年度）に確保すべき資金は、2059年度以降30年間（2088年度迄）の資金収支の見通しから判断を行うものとする。

2088年度までの更新需要及び資金残高の見通しは以下のとおりである。

図4-4-7：更新需要と資金残高（超長期）



また、2088年度までの30年間に想定される資金収支の見通しは、以下のとおりである。

表 4-4-7：資金収支の見通し

単位：百万円

検討ケース	ケース 2	ケース 3
①2059年度から30年間の損益勘定留保資金	995	630
②2059年度から30年間の資本的収支不足額	859	859
③2058年度末資金残高	768	305
2088年度末資金残高 (①+③-②)	904	76

以上より、最終年度である2088年度末の資金残高は、ケース2では9億円余り確保でき、ケース3では76百万円の見通しとなった。昨年度末の資金残高である4億円と比較した場合、ケース3では料金改定または起債による資金確保が必要になるものと考えられる。

4.4.6 アセットマネジメントの具体的な導入に向けて

本市工業用水道事業は、収益の見込みが景気動向に左右されやすいことから、今後は本アセットマネジメントの検討資料を基に、社会経済情勢の変化及び水需要動向の変化に留意し、必要に応じて本試算条件の修正を適切に行うことにより、中長期的な視点を持った工業用水道資産の管理運営を実践する必要がある。

また、事業計画は、管路の耐震化が当面の事業となる。本計画が策定された時点で必要に応じて本試算の再構築・再編成を行う必要がある。

そして、このアセットマネジメントの実践を通じて、維持管理、計画及び財務等の各担当が、更新投資の必要性や財源確保について共通認識を持つ必要がある。

